

# 経営比較分析表

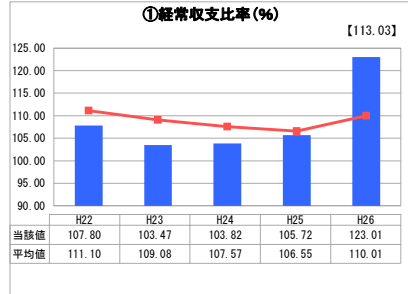
福井県 永平寺町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	51.03	99.28	2,214

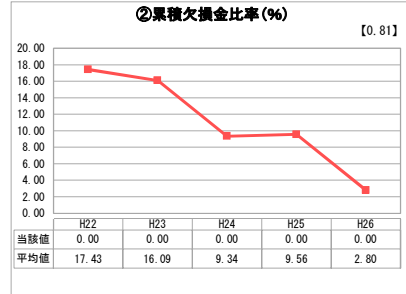
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,362	94.43	205.04
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,153	76.60	250.04

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

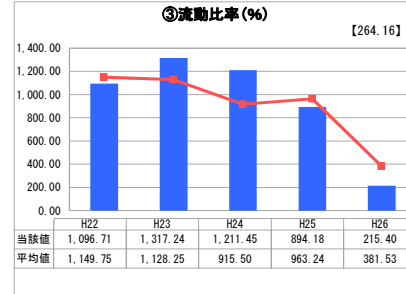
## 1. 経営の健全性・効率性



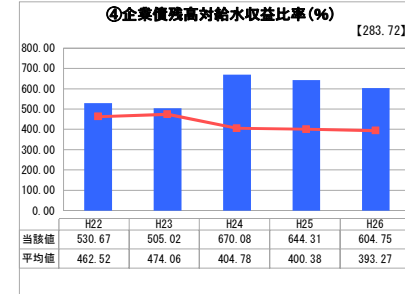
「経常損益」



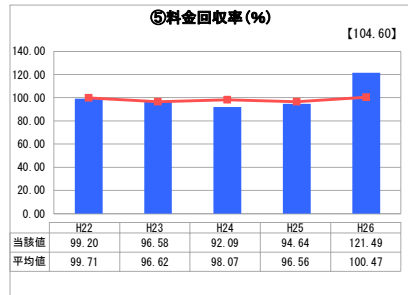
「累積欠損」



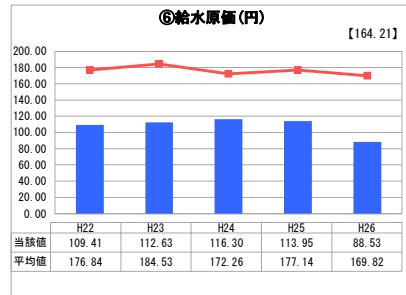
「支払能力」



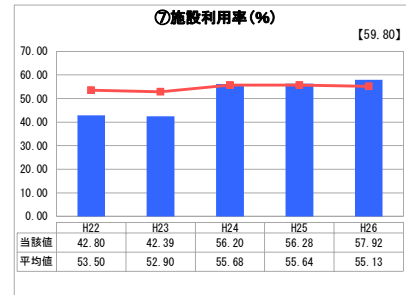
「債務残高」



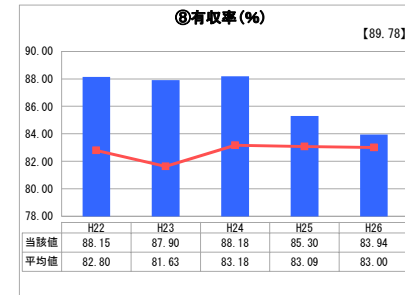
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

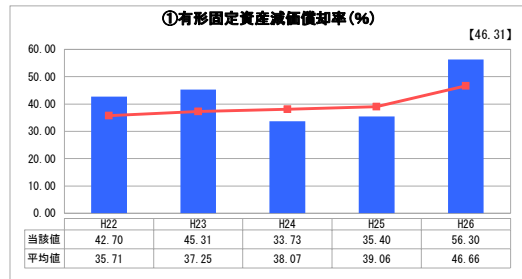


「施設の効率性」

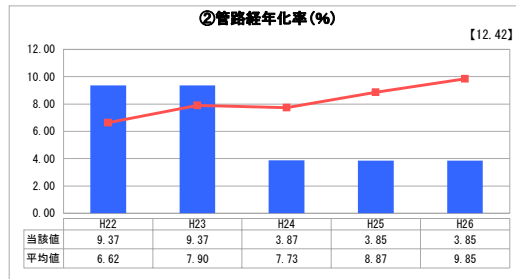


「供給した配水量の効率性」

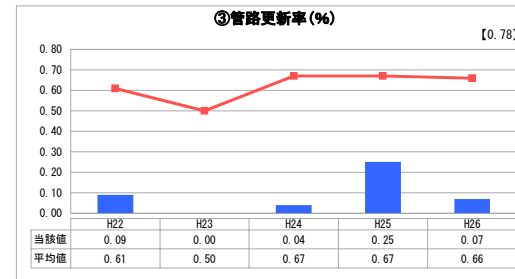
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上であり、類似団体平均値を上回っており良好である。しかし今後も健全経営を続けていくため、包括的業務委託等、更なる費用削減に向けての検討を進めていく必要がある。

②流動比率は100%以上であるが、現金といった流動資産が減少傾向であるため、8次拡張事業で計画している建設改良事業については、企業債の活用により1年間に支払う債務を平準化させていく。

③企業債残高対給水収益比率は、類似団体、全国平均値を大きく上回っているため、将来の持続可能な水道事業の経営を見据えた料金改定を検討していく必要がある。

④料金回収率、⑤給水原価では、現在は適正な料金収入を確保している状態であるが、更なる更新投資等に充てる財源が確保されていないため、投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善が必要である。

⑥施設利用率、⑦有収率は、施設規模、稼働状況とも適切な数値を示しており特に問題はない。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産原価償却率は、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示す数値が類似団体、全国平均より若干上回っている。しかし、②管路経年率、③管路更新率の数値が低く、必要性の高い管路更新が目前に迫っている訳ではないため、現在のところ経営に与える影響は少ない。

## 全体総括

現在の経営状況は良好な状態である。しかし、今後は人口減少到来による収益の減少や水源井戸、配水池の耐震化事業、さらに取水・送水・配水ポンプや計装盤、計装機器受電設備の更新事業が経営を圧迫していくと推測される。このため、料金改定による収益の確保、包括的業務委託の導入等による維持管理費用の削減を行い、経営改善を図る必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。